



特集 きずなシンポジウム



のぼりべつ 社協 だより

noboribetsu shakyo

「登別東町第5町会ふれあいサロン」の活動の様子です。
みんなで行うと自然と笑顔がこぼれるリズム体操を楽しく取り入れています。

CONTENTS

- P 2 特集 きずなシンポジウム
- P 4 じぶんの町を良くするしくみ 赤い羽根共同募金
- P 6 きずなかわら版
- P 7 市内3地区でビールパーティーを開催しました
きずなのまちびと
- P 8 気軽に楽しく！ボランティア体験プログラム
社協新体制のご報告



2019
09.01 No.142

[発行] 社会福祉法人 登別市社会福祉協議会
 [事務局] 登別市片倉町6-9-1 登別市総合福祉センターしんた21内
 [TEL] 0143-88-0860
 [FAX] 0143-88-4546
 [mail] info@kizuna-shakyo.jp
 [HP] http://kizuna-shakyo.jp/
 [Facebook] https://www.facebook.com/kizunashakyo/



この社協だよりの発行は、赤い羽根共同募金の支援を受けています

きずなシンポジウム

共に生きる力を育むまちづくり～地域でのボランティア実践者のおもいから～

登別社協では、第3期登別市地域福祉実践計画（きずな計画）に基づき、市民主体による福祉のまちづくりを推進しています。7月18日、今一度福祉活動の原点に立ち返り、これからの登別における市民主体の福祉活動のあるべき姿や、共に生きるまちづくりについて参加者と考えることを目的に、市民協名のご参加もときずなシンポジウムを開催しましたので、内容をお伝えします。

■報告

平成30年度のきずなの取り組み



きずな推進委員会 委員長
田淵 純勝氏

昨年度は高校への出前福祉講座の実施や小地域ネットワーク活動実施町内会の増加等、これまで取り組まれてきた活動が着実に全市に広がりを見せました。

今年度は第3期きずな計画において最も大切な時期であると思います。きずな安心キット配付後にどのような取り組みに活かしていくか等、これまでの取り組みを更に強化していくほか、より先を見据えた取り組みになるよう多くの市民の理解を得ながら進めていきたいと考えています。

■講演

「共に生きるまちづくりを続ける熱意の源

～暮らしの中で安心、喜び、感動を～」



公益財団法人 北海道地域活動振興協会 評議会委員
井上 宏子氏

■「知る」ことから「伝える」ことに

様々な社会情勢により、これからの未来が先行き不透明である中、私達の暮らしに関係のないように思えることであっても、それを知ることだけは必要です。自分自身の興味関心のあることだけ知ろうとすると、画一的な価値観でしか物事を見ることができなくなります。興味関心のないことであってもその情報を得ることで、それだけ視野も広がり、普段の活動に幅が生まれると思います。自分の知らない情報を収集するためには、サロン等の地域の集まりに積極的に参加していくことが重要です。

そして、そのことについて次世代を担う子ども達と話し合う機会を持っていただきたいです。親だけではなく、地域住民が子どもに道を示していくことも必要ではないでしょうか。その際には褒め言葉も積極的に使ってほしいと思います。それを受けた子どもは、また次の世代へ伝えていくのではないのでしょうか。

■つながるためには「言葉」と「目線」

孤立と孤独は違うものです。孤立はひきこもりなど物理的に壁をつくってしまつたもので精神的な支援を専門職が行う必要がある一方、孤独は本人が心で感じるもので、地域の力がより重要となります。孤独が増えた要因としては、他者へのお節介がなくなったことに関係があるのではないのでしょうか。

人間にはせっかくな言葉があるので、使わない手はありません。特に挨拶はお節介のきっかけとなるので、積極的に行ってほしいと思います。また、言葉の強弱等で相手がどのような体調や感情なのか確認することができるため、対話は大切にしていきたいと思っています。

人間は誰にも頼らずに生きていくことは難しい生き物です。他者やボランティア活動との関わりを持ち、安心を得ることで自分の心の安定や依存の分散、知見の広がりにも寄与することにつながると思います。

良い関係性を築くためには相手の目線に合わせることが重要です。押し付けではなく、歩み寄る姿勢で伝えていくことが必要となります。



■知恵を活かした活動を

ボランティア活動の目的や内容は具体的に示される必要があり、その指針となる計画ではそれを明記しておかなければなりません。きずな計画では市民がどのように動くかが具現化されており、それを実行できる団体に財源を投入することが登別のあるべき姿ではないでしょうか。ボランティア活動は、学びから得る知識だけではなく、体験から生まれた様々な知恵を活かしながら行われています。何事もできることから始めてみる、実際に行動してみる経験が、より良い取り組みにつながります。それらが明記されているのがきずな計画だと思います。

ボランティア活動は、自分の良さにも気付くことのできる活動です。自分を認めてほしいという欲求は誰でも持っており、高まっていくものです。ボランティア活動は、自分を必要とすることに関わることができ、それは自分自身の認められたいという欲求を充足する一つの機会でもあります。

登別は道内ではまだまだ若いまちです。これから知恵を活かして、自分自身の面倒を見てくれるかもしれない若い力を借りながら、次世代につながる活動を進めていただき、まち全体がもっと元気になっていくことを心から願います。



■事例発表

「健康づくりや介護予防ボランティア活動を通じた喜び」

ボランティアアドバイザー 佐孝 隆氏

働いていた頃は、ボランティア活動や地域活動に関わったことはありませんでしたが、心筋梗塞で倒れみるみる体力が落ち抜けなくなったことを機に、登別ノルディックウォーキング愛好会に入会しました。会員の親身な支えもあり体力の回復を実感、そこから身体づくりに興味を持ち自主的に学びました。自分も地域にお返ししたいとの気持ちからサロンを立ち上げ、また、地域拠点丸ごと支え合い事業のスタッフとして、身体づくりや介護予防体操の指導も行っています。相手の笑顔や、体力が少しずつ付いている様子に喜びとやりがいを感じます。今後も身体の動く限り、自分を活かして地域のため活動したいです。

「支援を通して感じたボランティアのおもい」

日常生活自立支援事業支援員 植田 正子氏

子育ても落ち着いた頃、「美園地区婦人ボランティアクラブ」に誘われ、人と関わるのが元来好きだったので入会しました。自分の地域から孤立死をなくしたいとの想いで、訪問活動等を行いました。平成元年には高齢者や障がい者の入浴支援サービスに携わり、ご本人とご家族の嬉しそうな様子が励みとなりました。その後「在宅福祉ボランティアとわの会」で、社協のデイサービス利用者を対象に湯茶提供や整髪、季節行事等を実施しました。現在は自身での金

銭管理が難しい方へお手伝いをしています。これまでの活動から多くの学びを与えてもらい、大変ありがたく思います。これからも可能な限り人と交わる活動に関わりたいです。

「きずな計画とともに歩む福祉活動

「自身の活動と校区の動きから」

驚別小学校校区きずな推進委員会 リーダー 中原 義勝氏

これまで病院の協力を得て自身の町内会であれあい・いきいきサロンの実施や、子育て中の母親の協力も得て校区でのふれあい・子育てサロンを立ち上げました。初めてサロンに来た時0歳だった子が、小学校の入学式を迎えた際は感慨深いものがありました。現在は、小学校区の地域拠点「しゃべっ茶お」を立ち上げ、誰でも来られる居場所として月に2回実施しています。今後は買い物支援や生活支援の課題に取り組んでいきたいと思えます。きずな活動は国連で提唱されるSDGsにも当てはまるものであり、これからも誇りを持って楽しみながら推進していくことができたいと思います。

総評

きずな大使 鳥居 一頼氏

ボランティアは相手へのプレゼントであり、自分の生きた証。相手からの「ありがとう」を受け取り、自分も「ありがとう」と思えます。また、相手を一方的な弱者と決めず、その人の力を引き出す向き合い方も大切な視点です。

※SDGs（エスディーゼーズ）とは
国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成するため掲げた17の目標。「すべての人に健康と福祉を」の項目も含まれている。

じぶんの町を良くするしくみ

赤い羽根共同募金



運動期間 10月1日～12月31日まで

目標額 710万円

※共同募金は、社会福祉法に位置付けられた募金活動です。



第55回登別地獄まつりのイベント募金の様子

赤い羽根共同募金運動がはじまります

今年も10月より赤い羽根共同募金運動がはじまります。12月までの3か月間、戸別募金をはじめ様々な方法で募金活動が行われます。

赤い羽根共同募金のしくみ

募金活動を開始する前に、次の年に登別市内で行う福祉活動や必要な事業の計画を立て、その計画を実現するために必要な金額の募金を募る計画募金です。市民の皆さんにご協力いただいた募金の約7割が登別の福祉活動に、約3割が全道規模の広域的な福祉活動等に活用されます。

来年、このような事業を支援するために募金活動を行います

ふれあい子育てサロン推進事業

子育て中の親同士の交流や、子育ての先輩である地域住民を交えて日頃の悩みを相談し合う等、子ども達の成長を地域全体で見守る暖かな居場所づくりのために。

きずなのまちづくり助成事業

地域福祉実践計画「きずな」の趣旨に基づき、市民団体等が行っている活動への助成のために。

きずな活動の推進事業

地域の困りごと等を話し合う「住民座談会」や、登別市の福祉活動を考える「きずなシンポジウム」を開催するために。

ふれあいフェスティバル開催事業

ボランティアのご協力のもと、市民の皆さんに福祉に触れていただく機会と交流の場をつくるために。

ボランティア体験事業

ボランティア団体や福祉施設等のご協力により、幅広い年代の方に活動を体験してもらうために。

広報啓発事業

登別社協の各種情報誌やホームページで市内の福祉活動を広く皆さんにお知らせすることで、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを目指すために。



この他にも、登別市内では様々な共同募金の助成事業を行う予定です。詳しくは登別社協HPまたは、赤い羽根データベース「はねっと」をご覧ください。

さまざまな募金方法

戸別募金……町内会を通じて各家庭に呼びかける募金方法です。(封筒募金等)

街頭募金……ボランティアの皆さんが街頭に立ち呼びかける募金方法です。

法人募金……企業等を訪問して呼びかける募金方法です。

篤志家募金……個人宅を訪問して呼びかける募金方法です。

職域募金……会社等の職場内で呼びかける募金方法です。

学校募金……学校内で呼びかける募金方法です。

イベント募金……各種イベントで呼びかける募金方法です。

その他にも、募金箱の設置等、皆さん一人ひとりのできるカタチでご協力をお願いします。

寄付金付きご当地バッジ完成!

「登別市PRキャラクター登夢くん」と「赤い羽根」

赤い羽根共同募金限定のご当地バッジが今年も登場!デザインは日本工学院北海道専門学校の学生さんにお願いました。ご希望の方は本会までご連絡ください。



1個 500円

商品取扱い場所 8月6日現在

登別市母子会売店・登別パークサービスセンター売店・登別市社会福祉協議会・市内イベント時の赤い羽根共同募金ブース

あなたも赤い羽根の応援サポーターになりませんか?

道内には、北海道の福祉活動推進への貢献を目的とした、赤い羽根共同募金運動の応援サポーターがあり、募金活動の協力やチャリティーイベントの開催を行っているいただいています。

この活動の登別版として、市内で行う活動や大会・イベント時に、横断幕のぼりを設置し、共同募金を応援していただけのスポーツ団体、少年団を募集しています。

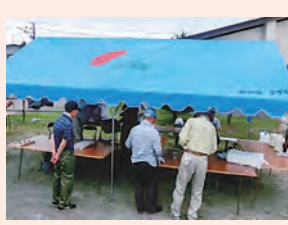
募金箱の貸出や横断幕の作成等は本会で行いますので、詳しくはお問合せください。

道内の赤い羽根応援サポーター

北海道日本ハムファイターズ、コンサドーレ札幌、レバンガ北海道、初音ミク等

赤い羽根テントを助成しました!

登別社協では共同募金の財源を活用した「きずな赤い羽根テント助成事業」を実施しており、今年はい町内会へ助成を行いました。



▲テント活用の様子



※法人・企業による募金の取扱いについて
共同募金は、財務省からの指定寄付金として認められており、寄付に対する優遇措置の対象となっています。法人・企業が共同募金に寄付をすると、その全額を損金に算入することができます。

お問合せ先 登別市共同募金委員会
電話：88-0860
FAX：88-4546

登別市共同募金委員会

役員・評議員のご報告

この度、改選により新たな役員・評議員が任されましたのでご報告します。

(任期 令和元年8月1日～令和3年7月31日)

会長 横尾 逸郎

副会長 中川 信市

理事 辻 勲

太田 通

森 芳昭

島田 幸一

黒田 庄一

秋葉 薫

須賀 武郎

竹中 洋子

荒関 芳弘

津村 進

山道 春秋

原田 敬三

岸 正治

千葉 一男

伊藤 信一

山田 則子

竹内 信子

鈴木 朋子

山田 大樹

對馬 敬子

森口美洋子

池島 泰彦

武田 雅康

田代 健二

伊清 淳彦

田淵 純勝

雨洗 康江

三浦 忠夫

西野 みわ

田淵 利男

村井 寿行

吉田 伸吾

山本 公

川島 芳治

日野 安信

白川 敦子

堀尾 政江

藤原 裕子

花野 正則

辻 君子

小林 藤子

堀切智恵子

相馬 裕一

工藤俱二雄

きずな かわら版

◆町内会に加入しましょう◆

町内会では皆さんの暮らしをより良いものにするため、次のような取り組みを行っています。

①市内の情報提供

発行される広報物等を、町内会を通じて回覧・配布しています。

②誰もが安心して暮らせる地域づくり

防犯灯の設置および維持管理や災害に備えた防災活動、地域の民生委員・児童委員と連携し高齢者や障がい者への見守りや支援を行っています。

③清潔で快適なまちづくり

ごみステーションの管理や花壇づくり、道路の清掃、資源回収活動を行っています。

④会員相互の親睦交流

地域のお祭りや敬老会、健康教室等を開催しています。また、子ども会を組織し、青少年の健全育成にも努めています。

⑤地域課題への対応

地域や町内会の生活課題について、行政や関係機関と連携し、課題解決に努めています。

その他、各町内会によって様々な活動が行われています。町内会活動は住民同士の支え合いの形です。子どもから高齢者まで、地域に暮らす全員で支え合っていくためには、皆さんの理解と協力が必要です。加入方法等、お気軽にご相談ください。

登別市連合町内会 事務局 TEL 84-11079
登別市中央町6-11(登別市役所 市民協働グループ内)

寄付者のご紹介 (2019年4月1日～2019年7月31日)

(敬称略/単位:円)

受領年月日	寄付者名	寄付金額	寄付の目的
2019.04.02	室蘭民報社胆振中部支社	30,000	「新入学児童」新聞広告料の一部を社会福祉のために
2019.04.02	協同組合登別中央ショッピングセンター	44	社会福祉のために
2019.04.03	登別歌友会	20,000	第30回歌謡グランプリの益金の一部を社会福祉のために
2019.04.08	石坂 光汰朗	2,853	社会福祉のために
2019.05.11	国際ソロプチミスト登別	30,000	チャリティーコンサート「愛のうたの夕べ」の益金の一部を社会福祉のために
2019.05.28	匿名	1,020	会議の費用弁償を社会福祉のために
2019.05.28	匿名	2,240	会議の費用弁償を社会福祉のために
2019.05.30	わしこうD愛好会	10,000	第22回ダンスパーティーの益金の一部を社会福祉のために
2019.06.02	登別中央飲食店組合	50,000	チャリティゴルフ大会の益金を社会福祉のために
2019.06.17	匿名	2,694	会議の費用弁償を社会福祉のために
2019.07.18	匿名	3,000	社会福祉のために
2019.07.19	佐孝 隆	6,000	社会福祉のために
2019.07.22	鷺別地区ビールパーティー実行委員会	102,692	第34回鷺別地区ビールパーティーの益金を社会福祉のために

愛の小箱等設置協力者のご紹介 (2019年4月1日～2019年7月31日)

(敬称略/単位:円)

受領年月日	設置協力者名	寄付金額	種別
2019.04.23	協同組合登別中央ショッピングセンター	2,100	ガチャガチャ
2019.04.24	いずみ亭	21,011	愛の小箱
2019.05.30	協同組合登別中央ショッピングセンター	3,900	ガチャガチャ
2019.06.05	登別市社会福祉協議会	1,300	ガチャガチャ
2019.06.07	いずみ亭	22,310	愛の小箱
2019.06.28	協同組合登別中央ショッピングセンター	3,400	ガチャガチャ
2019.07.30	協同組合登別中央ショッピングセンター	1,600	ガチャガチャ

寄付物品のご紹介 (2019年4月1日～2019年7月31日)

(敬称略)

受領年月日	寄付者名	寄付物品	寄付の目的
2019.04.21	イオン北海道(株) イオン登別店	イオンギフトカード	イオン幸せの黄色いレシートキャンペーンで投函された1%相当額をイオンギフトカードとして
2019.04.26	(株)ツルハホールディングス クラシエホールディングス(株)	車椅子3台	社会貢献活動として、共同キャンペーンでの売上げの一部で購入した車椅子を社会福祉のために

上記期間にお届けいただいた団体等の掲載しています。

市内
3地区で

ビールパーティーを 開催しました



登別社協では将来的な福祉事業の拡大に備えると共に、安定した事業継続を図るため、社会福祉基金造成事業として市内3地区でビールパーティーを開催しています。町内会をはじめとする地域関係者のご協力のもと毎年実施しており、今年度は登別地区、幌別地区、鷺別地区の3地区合わせて600名以上の方々にご来場いただき、賑わう交流の場となりました。



▲鷺別地区ビールパーティーの様子

チャリティー市民演芸会開催予定日

登別地区

2019年10月19日(土)

幌別地区

2019年12月7日(土)

鷺別地区

2019年10月12日(土)



10月からは3地区でチャリティー市民演芸会も開催されます。踊りや歌の発表、小・中学生から合唱や吹奏楽等の発表もあり、日頃の活動の成果が披露されます。ぜひお誘い合わせの上にご来場ください。

まぢびとのまちびと

「まぢびとには、登別のまちの人、問題と人をマッチングさせる人、布の長さを補うまちのように地域を補う人という意味が込められています」

このコーナーでは、地域で精力的に活動されている方のきずな活動に対する想いや、これからの活動の展望などをお伝えします。

今回は、鷺別地区ビールパーティーで今年度の実行委員長も務められた、富岸町内会会長の工藤 保秋さんにお話を伺いました。

「楽しさとやりがい」の輪を広げる活動を

富岸町内会会長 工藤 保秋さん(富岸町)

今年度の鷺別地区ビールパーティーも盛況のうちに幕を閉じました。ご参加、ご協力くださった皆さん、ありがとうございます。



た。その後実施した町内会での会食会では、これまで毎年お誘いしても断られていた独居高齢者2名が初めて参加してくれ、「こんなに楽しかったんだね」と笑顔を見せてくれました。あの日の訪問で不安な瞬間に寄り添えたことで、少し信頼を寄せていただけのかなと感じました。人が人を信じることから関係性というものは始まるのだと思います。

私が福祉活動へ携わったきっかけは、平成9年に町内会へ福祉部を新設することになった際、福祉部長にならないかとの話をいただいたことでした。それまで福祉など考えたことがありませんでしたが、妻に背中を押されたこともありお引き受けることにしました。そこから福祉部長を約20年務め、平成28年からは町内会長を務めています。

平成10年からは民生委員・児童委員も務めています。相手の理解が得られなかったり上手く信頼関係が築けなかったりという場面では、長く続けていても未だに挫折感を味わいます。しかし、相手からの「ありがとう」の一言で報われ、その嬉しさが励みとなっています。

昨年9月の地震の際は、発生直後のまだ暗い内から独居高齢者宅を安否確認に回りました。

悩んでいるかと思いますが、私達も課題に感じています。だからこそ、若い世代にも興味を持ってもらうきっかけづくりは重要と考えています。子育て世代の多い地域特性を活かし、子ども向けのイベントや行事を多く実施し、楽しそうなので参加してみようというきっかけから、まずは町内会を身近に感じていただけたら嬉しいです。また、お祭りや行事のお手伝いは30分でも1時間でも構わないという堅苦しさのない形で、働く世代の皆さんにも可能な範囲で協力をいただいています。その人のできる時に無理なく、そして何より楽しみながら町内会活動に携わってもらいたいと思っています。福祉は市民全員が当事者であり主役です。若い世代の皆さん、まずは一緒に楽しみましょう！

気軽に楽しく！

ボランティア体験プログラム

ボランティア活動は敷居が高いと感じる方も少なくないかもしれません。登別市ボランティアセンターでは、誰もが気軽に楽しくボランティア活動を体験できる「ボランティア体験プログラム」を実施しています。福祉施設、病院、保育所、ボランティア団体等、38団体のご協力のもと、50以上のプログラムを用意していますので、自分の興味のある活動を体験することができます。「できること」「できないこと」に「できること」を「できるだけ」やってみる気持ちで、この機会にボランティア体験をしてみませんか。

ボランティア初心者の方も、内容は決まっていなくても何かやってみたいという方も、コーディネーターが相談に応じながら希望に合ったプログラムを紹介できますので、まずはお気軽にお問合せください。



▲地域食堂ゆめみ〜るでの体験の様子



体験のお申し込み・お問合わせは、登別市ボランティアセンター（TEL 88-2080）までご連絡ください。

体験者からの声

北海道登別明日中等教育学校5年生

高本^{たかもと} 汐音^{しおん}さん、荒井^{あらい} 羽那^{はな}さん



▲左：高本さん、右：荒井さん

3月に2人で地域食堂ゆめみ〜るの運営ボランティア体験をしました。当日は厨房に立って食材を切り、お客さんへの配膳や洗い物等の体験をしました。これまでアルバイトをしたことがなく、仕事に携わるのは初めてでした。長時間の立ち仕事は少し大変だったり、接客に緊張したりもありましたが、普段関わることのない高齢者やお客さんと接することができ、とても楽しかったです。また、食堂のスタッフは高齢でありながら、皆さんいきいきと活動されていて驚きました。私達のような若い世代ももっと地域活動や福祉活動に関わっていくことができれば、更に良い活動となるのではとも考えさせられる体験でした。そうした新しい学びがあったこと、少しでも若いうちから自分達がお力添えできたことが嬉しく、体験できて本当に良かったと思えました。

これから体験する人には、「まず1度やってみて！」と伝えたいです。普段自分が居る環境以外での出会いや学びには、面白さがたくさんあることを知ってもらいたいです。

社協新体制のご報告

この度、任期満了に伴う役員（理事・監事）の改選があり、6月17日開催の理事会にて三役が選定されました。

また、きずな推進委員会との連携強化を図るため、きずな推進委員長を新たに理事にすることを次期の体制となりましたので、ご報告します。

■役員

（任期：2019年6月17日～2021年度定時評議員会終結のときまで）

- ・会長 山田正幸（再）
- ・副会長 中川信市（再） 千葉一男（再）
- ・常務理事 武田雅康（再）
- ・理事
- ・工藤保秋（再） 川島芳治（再） 鈴木高士（再）
- ・植田正子（再） 小田恭久（再） 雨洗康江（再）
- ・田中秀治（再） 田淵純勝（新）
- ・監事 三浦忠夫（再） 伊藤秀男（再）

■評議員

この度評議員の交代があり、新たに富山重信氏、桑井孝子氏が評議員に選任されました。

※任期は前任者の残任期間（2021年度定時評議員会終結のときまで）となります。

